



1、原爆記念碑献水者・宇根利枝さん没

新聞で 原爆献水者の宇根利枝さんが亡くなったことを知らされた。H24. 2. 15

私が宇根さんに初めてお会いしたのは平成15年のこと。広島音大の研修に参加するために出かけた広島は、私にとっては原爆以前の昭和17年以来のことである。

当時、祖父の住む田中町から広島市立竹屋国民学校へ通学したが、僅か1年で清水へ転校したので記憶は定かでない。しかし、以後も気にしていたことだった。

60年も経て捜し当てた竹屋小学校。校長先生は「あなたの同級生の90%以上があの瞬間のうちに亡くなりました。授業が少なく登校して補習しようとしてやられたのです。あなたは貴重な生き残りですから、今後もこの学校にご援助ください」と言われる。このやり取りを聞いていたのが宇根さんであった。いきなり「田中町もひどくやられたわね」と言われる。

改めて校長先生に紹介していただき、広島では著名な「原爆記念碑に全国の名水を汲んできて捧げて廻る」宇根利枝さんであることを知る。このとき宇根さんは広島市内に生き残る樹木の葉を集めて子供たちに工作させようと校長先生共々試行錯誤しておられたのであった。

聞きたいことが多かったが、宇根さんの話は飄々とユーモアに満ちて止めどがない。取水中の失敗話など次々に展開して、肝心なことはあまり聞けなかった。その後も竹屋小学校では百周年の式典があり、再会して写真も撮らせて頂いたのだが……

「急性心臓マヒ90歳」だという。 祈ご冥福。



絵本になった宇根さん

2、筆の楽しみ

ならの工芸館で「筆作りの公開実習」が行われるというので行ってみた。

既に若い人や外国人が作業をしていて、順番が廻るまで相当待たねばならないとのことで、実習はやめて伝統工芸士の方の「筆作りの実際」を見せて頂いた。

誠に手も達者口も達者で、奈良筆と中国筆との違いまで実演と説明とを受けた。

わが家は、祖父母も父母も筆を持つことが好きだったので、用具も相当数あったと思う。戦中戦後に失った物も多いが、鳥坂に住むようになり、また数が増えていた。それが今回の転居騒ぎである。

物理的に不可能なのでほとんどを処分せざるを得なかったが、まさしく「引っ越し貧乏」である。

端溪硯や雨畑は書をする人には好評なのですぐに嫁入り先が決まる。日本各地の和紙、中国紙もそれぞれに引き取られ、墨も好評。しかし、筆が困った。細筆や中筆は何とかなるが、私がステージの横看板を書いた超太筆などは貰い手がない。

私が使えばいいのだが、ステージの御用どころか縦看板さえお呼びじゃないし、第一、拙宅には書初めをするスペースさえない。

「行き残った筆」約50本が奈良へ来た。硯を右に、小筆くらいは使いたいもの。筆は疲れを知らずに書けるから。

通産省指定伝統的工芸品

奈良筆



3、貼ることと剥ぐこと



割引き料金の平城宮温泉へ行ったときのこと。浴場から脱衣所へ戻って来ると、ご老人が裸のまま、背中についている膏薬を剥がそうと苦勞していた。

腕が廻らず、手が空を切っているので「お手伝いしましょう。剥がすのですね」と声を掛けると「何言うてんネン！ 剥がすとチャウ！ 貼っとるやんか！」ときついお言葉。剥ぐと貼るではえらい違いや。

この地では、親切されると反発する人が多いことを経験してきたから、それ以上には言わなかった。「デモナ、オッサン。パンツぐらい穿いてーナ。いつまでも目の前でブラブラされるのも迷惑なんやけど……」。

4、奈良の天気



皆さんからのお便りに「さぞ寒いでしょう」と書かれることが多い。確かに寒い。持参した荷物に防寒具があったので、ためらわずに着ているが、清水で用いていたのではなく、冬のヨーロッパへ旅行した時に使ったものである。斑鳩は特殊気候・特異地だそうで、天気予報で北や南に雪マークが出てここには降らないから、孫も傘を持って行かない。午後に薄日が射してくることもある。しかし、油断は禁物。少し風が出て来たかなと思うまにぐっと冷えてくる。寒い。拙宅は防風は良いとしても暖房は不十分。仕方なく防寒具の重ね着で夜を過ごす。

平城宮温泉(前項)へ行った際、平城山(ならやま)へ廻ってみた。少し遅い昼食を採っていると急に暗くなって雪となった。最初は風花かと思っていたが、次第に横殴りとなり、大粒である。ウェイトレスに「雪だよ」と声を掛けたが「そうですね」と反応が鈍く、この程度で驚くのはおかしいとでも言いそうである。近くには広い鴻池運動場や、休業中らしいドリームランドなどがあるが、次第に景色が灰色になる。

私の車はスノータイヤではないので、路面凍結しない前にと店を出る。幸いに積雪はない。一旦、東行して南へ下ると「般若寺」の看板。以前、柳生へ行こうとしてこの看板を見たことがあったので「ちょっと寄って行こう」としたが、門前まで行って、またも雪が激しく降って来たので下車を断念。県道754号線を南下して東大寺の西側に出る。これが昔の平城宮の東の果て「東七条大路」である。さらに国道369号線を南下すると矢田丘陵が見え、天気が回復した。龍田川に添う龍田公園には梅が咲いており、桜の芽も見える。

5、ふくら雀

私が駐車場としてお借りしているのは、100mほど離れた空き地。元は畑だったが、耕作する人がいなくなり、アパートと駐車場になったのだという。

私の駐車位置は一番奥で、昨年春には二羽のケリが歓迎の踊りをして呉れた所。その後、夏草が茂ったり雨水が土砂を抉って流れたりしたが、廻りの近代化からは無視されたように昆虫が動いたり、みみずが居たりした。今は「ふくら雀」のホームランドである。10数羽いると思うが、車の進入には驚かない。私の車の下にまで入り込んできて、草むらから何羽も首を出している様子がとても可愛い。私が下車すると逃げるが、乗車すると数分後には元の草むらに降りて来る。

ふくら(福良)雀とは「冬場に羽を膨らませている雀のこと」と辞書にある。



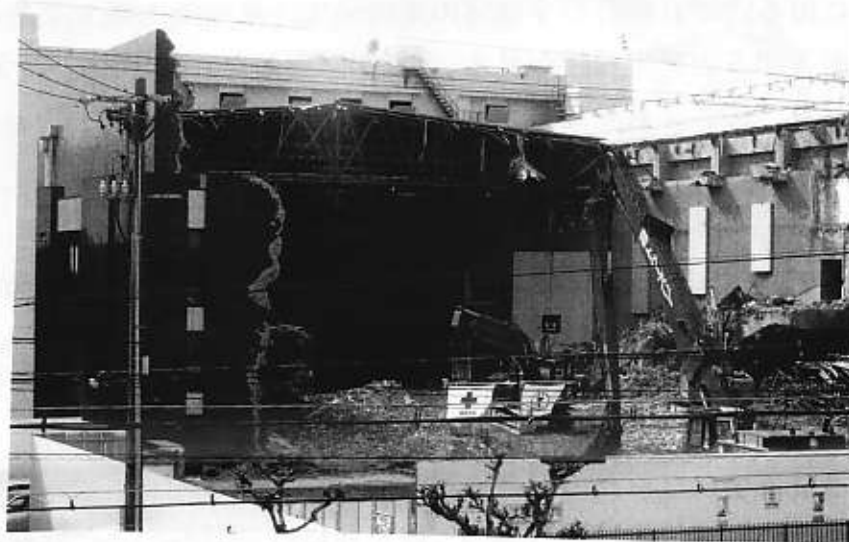
奈良新聞 読者文芸の俳句と時事川柳

雲走る 古墳は淡き雪被り	宮跡といわれし里に雪積もる
五重の塔 見惚れて寒さチト忘れ	阿修羅像 拜んで来たり初句会
鏑矢の音で始まる弓初め	豊饒を願う飛鳥の里神楽
山焼きの合図の花火 窓に寄る	祝詞あげ 読経唱えてお山焼き
山焼きに影浮き上がる大仏殿	残り火を噴霧器で消す お山焼
山焼かれ 今朝の山肌斑なり	天よりの散華めいたる春の雪
松明を投げて鬼追う法隆寺	立春や 鬼と仲良く写真撮る
風花の古都を駆け行く人力車	銅鐸の出土のあたり下萌ゆる
梅祭り 幟はためく茶屋に入り	芽を競う竜田桜と城の竹
古都戦に勝ったが駅舎決まらない	市議会の隅まで吹けよ春一番
頑張るな 陛下も既に御齢なり	現代にうろたえながら喜寿となる

過去の上に未来を築く

取り壊される
清水市民会館
大ホール

様々な思い出は
個々の胸に



建設が進む
新市民会館
『マリナート』



特別陳列

お水取り

Treasures of
Tōdai-ji's
Omizutori
Ritual

2012.2.11(土・祝) - 3.18(日)

休館日：2月20日(月)、2月27日(月)

開館時間：午前9時30分～午後5時

2月11日(土・祝)～14日(火)は午後9時まで、3月12日(月)は午後7時まで、

3月1日(木)～11日(日)・13日(火)・14日(水)は午後6時まで開館時間を延長します

※平日入館は開館の30分前まで

主催：奈良国立博物館、東大寺、仏教美術協会

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)

ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ <http://www.narahaku.go.jp/>

携帯用 <http://www.narahaku.go.jp/mobile>

